

## 国語科シラバス（第1学年）

### 指導の方針

#### ○基礎的・基本的な知識及び技能の習得をめざして

文章の内容や表現の仕方を理解させるために、効果的な言語活動を行います。  
漢字練習や小テストを実施し、語句の知識を身につかせます。

#### ○思考力・判断力・表現力その他の能力の育成をめざして

根拠を明確にし、筋道を立てて自分の考えをまとめる、発表する等の学習活動を展開します。  
ワークシートを活用し、重点的に書く活動を取り入れ、自分の考えを表現する学習活動を展開します。

#### ○学習意欲の向上や学習習慣の確立をめざして

新授業六束を徹底して指導し、授業規律を確立させます。  
デジタル教科書などの視覚的教材を活用し、指導の工夫を図り、学習意欲を喚起させます。

### ●評価の観点と評価規準

評価の観点	主体的に学習に取り組む態度 (関心・意欲・態度)	思考・判断・表現 (話すこと・聞くこと 書くこと・読むこと)	知識・技能 (文法・漢字・ 言語活動)
評価規準	知識及び技能を習得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたるために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど、自らの学習を調整しながら、学ぼうとしている。	目的や場面に応じて、自分の考えや気持ちを明確に表現することができる。 話し手の考えや意見を聞いて、意図や目的を理解することができる。 伝えたい事実や事柄、考えをまとめ、材料を整理して適切に文章表現することができる。 文章に表れているものの見方や考え方を正しく理解し、自分のものの見方や考え方を広くすることができる。	音声、語句、語彙、文法、漢字などの国語に関する知識を身につけ活用することができる。
評価方法	提出物、ノート記述 ポートフォリオ評価 漢字・文法の確認テスト	発言、スピーチ、聞き取りテスト 課題作文、ワークシート 定期テスト、小テスト、ポートフォリオ評価	漢字・文法の確認テスト、定期テスト 小テスト、ポートフォリオ評価

### 評価と評定の関連

※評定（5段階）は、各観点の評価（A<sup>マル</sup>O=5点、A=4点、B=3点、C<sup>マル</sup>O=2点、C=1点）をもとに算出します。評価と評定の関連は、下表（例）のとおりです。

各観点の組合せ	合計点数	三観点の組合せ	合計点数	三観点の組合せ	合計点数	評定
A <sup>マル</sup> O A <sup>マル</sup> O A <sup>マル</sup> O	15点	A <sup>マル</sup> O A <sup>マル</sup> O A	14点			5
A <sup>マル</sup> O A A	13点	A A A	12点	A <sup>マル</sup> O B B	11点	4
A B B	10点	B B B	9点	B B C <sup>マル</sup> O	8点	3
B C <sup>マル</sup> O C <sup>マル</sup> O	7点	C <sup>マル</sup> O C <sup>マル</sup> O C <sup>マル</sup> O	6点	C <sup>マル</sup> O C <sup>マル</sup> O C	5点	2
C <sup>マル</sup> O C C	4点	C C C	3点			1

第1学年 各学期の学習の内容とポイント

	学 習 す る こ と	学 習 の ポ イ ン ト
一 学 期	<p>【話すこと・聞くこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>言葉に出会うために 声を届ける</li> <li>情報を的確に聞き取る</li> <li>好きなことをスピーチで紹介する</li> </ul> <p>【書くこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>言葉に出会うために 書き留める</li> <li>言葉に出会うために 言葉を調べる</li> <li>わかりやすく説明する</li> <li>記録のしかたを工夫する</li> <li>言葉を集めよう</li> </ul> <p>【読むこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「野原はうたう」工藤直子</li> <li>「シンシュン」西 加奈子</li> <li>「ダイコンは大きな根？」稲垣栄洋</li> <li>「ちょっと立ち止まって」桑原茂夫</li> <li>「詩の世界」</li> <li>比喩で広がる言葉の世界</li> <li>情報の集め方を知ろう</li> <li>情報コラム 本/インターネット/新聞</li> <li>本の世界を広げよう ・本との出会い</li> </ul> <p>【文法・漢字等・言語活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>言葉に出会うために 声を届ける</li> <li>言葉のまとまりを考えよう</li> <li>言葉の単位（文・文節・単語）</li> <li>話し言葉と書き言葉 ・漢字の組立と部首</li> <li>硬筆（楷書・縦書き） ・言葉を集めよう</li> </ul> <p>【読書活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>読書を楽しむ</li> </ul>	<p>○朗読やスピーチでは、以下の点に気をつけて話すことが大切です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>はっきりと、よく聞こえるように</li> <li>速さ、強弱に気をつける</li> <li>問の取り方を考える</li> </ul> <p>○説明文を読むときは、段落に着目して文章を読み問題提起の部分（問いの部分）と答えの部分に着目しましょう。</p> <p>○文法学習がスタートします。 文法をしっかり理解するようにしましょう。ここでつまずくと文法が苦手になってしまいます。</p> <p>○硬筆は、校内に展示します。 優秀作品は展覧会に出品します。</p> <p>○本に書かれているものの見方や考え方をとらえ、自分のものの見方や考え方を広くしましょう。</p>
二 学 期	<p>【話すこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>話し合いの展開を捉える</li> <li>話題や方向を捉えて話し合おう</li> </ul> <p>【書くこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>案内文を書く</li> <li>資料を引用してレポートを書く</li> <li>故事成語を使って体験文を書こう</li> <li>根拠を明確にして意見をまとめよう</li> </ul> <p>【読むこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「星の花が降るころに」安東みさえ</li> <li>「大人になれなかった弟たちに…」米倉斉加年</li> <li>「言葉」をもつ鳥、シジュウカラ」鈴木俊貴</li> <li>「いろは歌」（古文）</li> <li>「蓬萊の玉の枝」（古文）</li> <li>「今に生きる言葉」（漢文、故事成語）</li> <li>「不便」の価値を見つめ直す」川上浩司</li> <li>「大阿蘇」三好達治</li> </ul> <p>【文法・漢字等・言語活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>指示する語句と接続する語句</li> <li>文の組み立て（文の成分）・漢字の音訓</li> <li>書き初め（毛筆、楷書）</li> </ul>	<p>○物語、小説を読むときには、あらすじを確実に押さえ（いつ、どこで、だれが、どうした）登場人物の心情（気持ち）を考えるようにしましょう。</p> <p>○古典学習が始まります。 古典学習は「習うより慣れる」ことが重要です。何度も声を出して読んでみましょう。そして、古典独特のリズムを体で覚えるようにしましょう。</p> <p>○案内文は、事柄や目的に応じた項目を立てて、相手に伝わりやすい文を書くようにしましょう。</p> <p>※説明文、小説などは、読み方を学習する教材と、それをもとにして自分で応用的に読む教材とあり、進度が異なることがあります。 ※書き初めも硬筆と同様、校内に展示し、優秀作品は市の展覧会に出品します。</p>
三 学 期	<p>【話すこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>一年間の学びを振り返ろう</li> </ul> <p>【書くこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>別の人物の視点から文章を書き換えよう</li> <li>体験を基に随筆を書く</li> <li>一年間の学びを振り返ろう</li> </ul> <p>【読むこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「少年の日の思い出」ヘルマン・ヘッセ</li> <li>「さくらの はなびら」まど・みちお</li> </ul> <p>【文法・漢字等・言語活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>さまざまな表現技法</li> <li>単語の性質を見つけよう</li> <li>単語の分類 ・漢字の成り立ち</li> <li>漢字の練習 小学校六年生で学習した漢字</li> </ul>	<p>○漢字を学習する時に大切なことは、「読める」「意味がわかる」「書ける」ということです。漢字の意味もおさえましょう。</p> <p>○鑑賞文は、観点を決めて作品を見つめ直し、その魅力を伝える文を書きましょう。</p> <p>※小学校6年生で学習した漢字は、中学校では書けなければなりません。</p> <p>※実力テストは教科書本文以外からの出題となります。その場で読んで、その場で考え解答することになるので、授業中の質問には、自分で考える習慣をつけておこう。</p>